科目名	がん看護学特講Ⅲ	分野・必選別・単位数	専門科目（がん看護学）	選択	2単位

担当教員	◎教授　南川雅子					科目ナンバー	T2C131
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供するために必要な看護援助の方法について学ぶ。 がん治療を受ける患者や家族の反応に対処できるように、身体管理、看護ケアの概要を学ぶ。
授業の到達目標	1. 診断・告知、治療選択に臨む患者・家族の特性と自己決定を支える看護援助について説明できる。 2. がん化学療法を受ける患者の健康問題に対して包括的な支援を提供するための看護援助の方法について説明できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	南川　雅子　教　授	診断・告知に臨む患者・家族への援助① 診断・告知に臨む患者・家族の特徴と自己決定を支える看護援助について説明できる。
2	南川　雅子　教　授	診断・告知に臨む患者・家族への援助② 診断・告知に臨む患者・家族の特徴と自己決定を支える看護援助について説明できる。
3	南川　雅子　教　授	治療選択に臨む患者・家族への援助① 治療選択に臨む患者・家族の特徴と自己決定を支える看護援助について説明できる。
4	南川　雅子　教　授	治療選択に臨む患者・家族への援助② 治療選択に臨む患者・家族の特徴と自己決定を支える看護援助について説明できる。
5	南川　雅子　教　授	バッドニュースを提供する場合のコミュニケーション① 患者・家族にバッドニュースを提供する場合のコミュニケーションのあり方について説明できる。
6	南川　雅子　教　授	バッドニュースを提供する場合のコミュニケーション② 患者・家族にバッドニュースを提供する場合のコミュニケーションのあり方について説明できる。
7	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント① がん化学療法実施前から実施後までの薬物有害反応のアセスメントについて説明できる。
8	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント② がん化学療法に対する過敏症（アナフィラキシーショック、インフュージョンリアクション等）の発生メカニズムとアセスメント、エビデンスに基づいた看護援助について説明できる。
9	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント③ 悪心・嘔吐の発生メカニズムとアセスメント、エビデンスに基づいた看護援助について説明できる。
10	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント④ 骨髄抑制の発生メカニズムとアセスメント、エビデンスに基づいた看護援助について説明できる。
11	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント⑤ 食欲不振・味覚障害の発生メカニズムとアセスメント、エビデンスに基づいた看護援助について説明できる。
12	南川　雅子　教　授	薬物有害反応マネジメント⑥ 末梢神経障害の発生メカニズムとアセスメント、エビデンスに基づいた看護援助について説明できる。
13	南川　雅子　教　授	抗がん薬の安全管理① 抗がん薬の曝露による身体への影響、および曝露を避けるための方法について説明できる。
14	南川　雅子　教　授	抗がん薬の安全管理② 抗がん薬の投与の際に起こりやすいリスク、および安全・確実に投与するために必要な確認事項とアセスメントについて説明できる。
15	南川　雅子　教　授	まとめ がん化学療法を受ける患者の健康問題に対して包括的な支援を提供するために必要な看護援助について、ディスカッションできる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	文献を広く検索し、プレゼンテーションの準備を行う。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	日本がん看護学会：外来がん化学療法ガイドライン2014年版，金原出版. その他、随時紹介する。
参考書	
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションと質疑応答50％、レポート50％により評価する。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。